

実態調査 Q&A

Q1.「実態調査」とは何ですか？

ことばの教室などの通級指導教室や言語障害・難聴学級、幼児ことばの教室、支援・療育センターが直面している様々な課題に対し、道言協が行っている調査を「実態調査」とよんでいます。結果をまとめた「北海道における言語障がい児教育の実態」を毎年発行しています。

Q2.「実態調査」のねらいは何ですか？

全道にいる約450名の会員に北海道の言語障がい児教育の実態を伝えることはもとより、現場の実態を理解していただく資料として関係各位（道教育庁、各支庁の教育局・保健福祉部、国立特別支援教育総合研究所、道特別支援教育センター、親の会道協議会など）に配布しています。また、道言協のよりよい運営をめざす内部の討議資料としても活用しています。

Q3.5月上旬までの提出締め切りだと、仕事が多忙な時期で難しい。

時期をもう少しずらしてもらうことはできないですか？

一昨年度まで5月中旬の提出をお願いしていましたが、会員の方々の声を受けて、昨年度より調査の提出を8月末の締め切りとしています。今年度分の「北海道における言語障がい児教育の実態」は、次年度8月の会員教室一覧と同時期に発送することとします。なお、会員限定で今年度3月末にHPにデータをUPする予定です。

Q4.「実態調査」に「5月1日現在」と多く指定されているのはなぜですか？

道教委からの実態調査に合わせて設定しました。特に、人数などの調査項目で「5月1日現在」と指定し、そちらの内容を使っただけのようにしています。少しでも作業がしやすくなればと考えました。

Q5.「実態調査」の項目数が多くて、内容がよくわからないことがあります

調査の項目内容は、道言協組織部で毎年確認していますが、例年会員の方々が答えやすいように内容や項目数を精査しています。内容等で不明な点やご質問がありましたら、組織部調査担当の下澤までご連絡ください。

(メール：sro-sho-1@hokkaido.school.ed.jp)